榎著聞集

二

五〇

面白ク[illegible]
[illegible]
猿著聞[illegible]

猿著聞集二

○赤岩庚申山の事

下毛野ふに二荒山より西のかさふ小さち五十里ばかりをへて庚申山とのくる山あり高きこと小さち二十里ばかりふるみんあり胎内ぐりとのくるいたやをこえて二王のごと見大岩あり人のこころるのゆわあらざおのづからるをるものはて高きこと五六丈もあるべしふさたらぐと見谷のうへかるみのでこるる岩はしこけむしてゆめるるみ巖の門あり二十間ばかりの大いさゆして琴柱のくちやうせる又二丁ばかりもへく谷のるみうをうちうんをび二三十丈もあるほとおりかみどるいたれの塔のごくやぐらのごくるるがるみのでくそがいぐ見ふむぐらおひ樹去げりてあやしくも又るふひあり又二丁まりぐら西けぐてうと見とのてぐらりうありるみんたうぐと見大滝ありうるんぐと見とるみんのひるるのふさあら山るる滝ふ仰てたぐこるみ不出さうつぐくぞあがあるるみ五六丁まりものがりうみんとまるとと見右の方ゆりうしろ見石のこうくそびやぐとるぐ五ツ六ツぞるるびゆこるあくこるもつぐ見をうるるぐるぐ見えてひこぐ見ひるるぐこふそびえて雲ありひこうり庚申の二字あるをのて文字石とこそよぶるみうを見二の門とのくる岩門をこゆ出べとうるうのごと見いたれの四五丈るるがある又二三丈だうるるつ見ぐゆ岩ありを

るこけむしたる〜ぐ〜あり ひろそがかさいらゐ岩たしまり
てるぐさ十二三間だかりもあ〜んとどもあぐもる 橋より下を見
おろせば日のうらくるると見ゆるが谷のそこの見えざるハいう
だうろふくらんたかりぐさかべ〜いたてもついたふもまり
いたのかこ〜三ツあり四ゑどろると三ゑどろると穴
るりこ丞おくのねんとからぶるめりまり丞る神いとちひる丞の
そこときるぐひこのそこときさのをのそこかるんあろる東の
つるとのくるかのぐりてかうべをうちめぐらせどそのけ〜丞めもたる
かえもいた丞ざかくるめでる丞佛山を人のまろざりもいぶう〜
こ丞てぐらゆ〜人の仙境かやあ〜ん

○足尾おろの何ぐ山かりて猿かるり〜事

下つけの国足尾宿の何ぐ〜ぐ児と〜五ツのとそのづこう行ろん
ふといぐ〜かくらぐとぐこちひいてくるるみ〜ことかく〜てぐひ
めぐりる丞ぐ丞ぐ十日だかりへく庚申山とのくる山かぐひ登
りろう岩の上かあるこの猿のあとび居るこの中かこぐ子か面
ざ〜のかるぐある名をよびてこれる丞びやぐてきこうてちく
きかかとりつ丞てるくをこれ丞びたや身のうち毛のおひ出て
猿かるりるるりぐもるみ〜る丞どうひるくてるみくいぐきて
家かかくてろうさるぐ〜木の実だかりをこひて人のこうべつぐ丞も
のとそかいきう〜うもくさざりろりとてまかかえつる人のかめぐりし

よ〜沼田の里の松風軒のあじがせうそこーてあこせさる俤
ゐまちる〜つけね

○香取のうら大亀の事

下総のくゐかどりの浦ゐ大のるる亀あり夏秋のころハつゆゐうろ
こりづ大いるるハ一丈。おくハ七八さくちひさ見ハ二三尺ばかりるる
よりくさこどるものくあこゐひ見ハ丈あこををこるひつ〜こと
ゐかー はくゐゐ徳びやうるとるんいひけるものこををあい
ーてこの亀をうると見ハ酒あかくゐなせてたるちやうとるん
三戈図會ゐ和尚亀とのくいこをちゐやあうづんそのかーら
いとまちやうるみうこぞ

○火の玉空中をとび〜事

えど禮のことうを舟ゐのうるとゐさるのとゐ見ばかりゐやあり
けんじとうの方よりひつじさるのうこへ大いさ三尺ばかりるる
火の玉のごるるものゐ丹ごうをとびゆきるり人くおどろゐいうる
るものゐあつくんるどのごうひつ向ひの岸ゐのがりるとゐ未
さるのうこゐあうて山のんづくばかりるるおとのおどろくーくぞ
きこえるこのとゐ見人の家居の戸るどがかくとるううごきさ
る酉のうこゐあうる鄙ゐハさうじるどやゐ丈るるとうろゐあ
りここをきうつ丈さてのち十日ばかりへくあるとび人のいひる八王
子のゐとうの何がーとういる人の庭ゐ金張のいさごゐまーりうる

大いなる石のやうなるめく空よりおちてくだけちくだけひくる地も
くずれまうてとかーとやぶれたちぬたちうの家どもこなうくだくる
とぶのひーいうるるものあるあうちんいとあやーさるぬ八王子のこと
い人のひるをきーーるぬとびいくるるうんうまうどぬの王のとび
やるいえど人のおりくぬーーとあて今よりハ十とせあるう三年
ぢあうさるぬのことふるんあうろう

○大多津ぐさるぬ狐の事

相摸のくふ三浦ふ大多津ら嵩とのふところあり爰ふ海のる
うへたうのでる山あり此山ふとーーふうる狐をゑて名をおこい
女とるんよびるこのきつふ穢くう頼朝の沛代ーまるるふ時

のことるどふくおびえ居て人ふええてハつゑふものぐうひるるあと
よくあてるる女とるうてちうぬたうのうちをのうちを引まどハ
ーーるるぬ野山をさそひあうぬあるハ三日あるハ五日とかくうざることと
のとあふかう爰ふ永島荘びやうゑとるんいひるるあうをさあう
此家ふとかうあやうつるかぶとのまくどそのかぐそひうちをも
うるる此鏡を狐のおそるるうるーまどんされるあのあう
とぬいのうもうぬをとうでーさげさるるふちまち必さでーくるう
ぬ此家のみとうふいとるくるうまうきされる宇賀のそうるの
こやーうるるんあうるをそのうくんふ又一ーのみそうをいとるるそうの
きつふをまううふてぬどいそのちくそそあやーげるく人ふもうんだ

なりけり

○白川(しらかは)何(なに)がしが家(いへ)の幽霊(いうれい)の事

こちかく白川のほとりにすみけるあるものゝふの子にて心ざしなきにはあらねど
まづしくよろづのことにもうとからねばありけりとしごろゆたかなりけ
れば かの妻(め)をもむかへまゐらせし父(ちゝ)はなさけごちをさとのちてかとおもへしが
どもなくてすぎにしぬおなじころしにはやまひのためにむすめにて
ありける二人ともにてこゝろよりまめやかなるがありけるはそのころにか
かゝるひあひもなくあきらかなる中となりてとしへてのびておもひけり
さるをうしろは親(おや)につげにぞ父ともにちかへりてしかば心ざしを
うる人なうごちして父ともとかくいひあらそひ女の母(はゝ)にもふくろてうひ

あはせてかのむすめをこれが女となしてにけり次(つぎ)のとし女子をまうく
男子(をのこご)をさへうまれしてのち女の母(はゝ)なさけごちがひ行てのちやうやうけじ
めそだちにまゐらせしまうきのこ子うまれしかんのちはまことの妻(め)
ともなしなかんとらくちがひまゐらせしかばつれづれ妻(め)にて
さとなしてなひなめそれさもなくはとくかへしなれはしとぞせしかば
なさけちの人もせんなくなく男(をとこ)の父にかくとつげぐるに父のくくわう
てのちやうやうこそ心ざしの死ののむすめまことの妻(め)となりしが
かへせとありしかばかくさんに何らはかく死ことのあはれとくくともなひゆけ
かしとみがくしうぞこそへうるおやくのこゝろかはるなりしか男(をとこ)も女
もせんかたなくなくなくこゝろしとなりにけり母はむすめをこゝと人に

あそせまくおのひ人をとくとうひさろくこゆえんをのとめあとこぎ
いめてきろ〜をもとうの丞んとーろるゆどむとめいるこておるげ
きのくとせこびめゆきろるとものる丞ーつ母子どっひ〜犯をとひさ
ぶろこぶ丞るゆ犯ゆろう母いいっるくいろくこちてこぶこあこきるかこ
ひ犯ゆひある人ゆて家ときこれど母ぶくあゆも幸るをこをいるむ
ここそ親をおのろぬきゆ丞おのの丞おやをおのいざる子いあってかひ
るー〜ひこきとこいるゆまびころ〜こべ〜とつる犯をぬいておびやっと
ゆぴうゆろ〜けんむひのあこうゆつ犯こそけうむこあいことのひ〜こるべ
かうゆてか〜こゆどゆとこの丞こゆ〜ぴどかうあって死ゆろうころを
長月どかうのこゆるんゆろる男のろこゆもゆろらこるどこゆも

ひつるひとろねもうどふ丞べ久〜くるろぬ今のゆど女い何とろおもひ
をこうんとのゆ〜ことのこきのど丞て空の雁ど庭のむ〜のひそよ
ふく風も身ゆ〜ころくよくうゆのきゆ〜をさる子のふゆ寸ゆまゆろう
ひ居ころろ。と犯い子ひとろどかうゆふるんゆろるゆまてべのさろう
じをきめやろゆおくるゆとこと何ゆろゆろんとろちこ丞べこころれ
女のーのびてひろきーるろろるこどゆここてをこる犯ゆのを
ひど犯とろ乳をふくゆませそうくーこをろ男こてかろ〜のび来
つるここを母のきろくこるひどひとこそいろ玉ろうめとくかくこるひ
とひこをこいこあかて〜ろろこてもつとゆて人のろくこるををきけど
女いふどるんきこ〜丞て死こるとのふこていゆやー狐こぬきこうど五郎

をまどかとふこそあつつゝめとまきりふろくごひおめひきうその夜
もよべのどのうくるをまちつけてくるをぬいてきりたゝんどるみ
そこふるのゐゝさの丞るみをぐさいえゝてかゝこふありこをぞを
かく丞だいゝ人もゝつこ丞やゐ丞くゐのまよひきろゝこよとてやぞて
ぞおのひちてゐかゝこと夜どゆそうどかさゐろう白くまくみいつゝう
家のうちの人くもさとうけんりのくおとさ丞びおどくゝのびよう
てういまこゝ丞どあぐゝ人の目ゆい生けありのゆもええさこぐ
つゐと子みのこゝえゝとゐろう仕白川の何ぐゝ寺みのうのこちう
みもうゐいゝく人のこゝこゆゐう丞つるやんどゐ丞上人おこゝろう
仕男この上人の沛みとふまゆりてかうさゐのあやゝ丞こゝこゝこぐ

ゐゐ丞ねがたくい上人そのうのとくをもみどこゝゐひて女ぐまよ
ひのゐゝこをもとくひこゐふみどゐぐよみうれゝくこゝこぐゐ
ゐ丞とひこゝとくこのこ吹こゝ丞ど上人ゝさいあじどどうけぐい
丞ゐこ丞よう四五日いこゐこゝこゝゝある夜例のど女ゆりきて
ゆとよゐこぐゐさゐみていふこふと丞このうのくどくみこゝゐゝ丞まよ
ひもこ丞行こう今こゐのちいこえこぐゐじここふくゐさる筆み
紙こくくこびひこのふ男ふでと紙こをとゐてゐみゆこせこ丞ど
かこのこゝをのこくひつめこよこみ雨のふゐゐんさゐみ
待こびゝのうのをくくのゐどくみ行き丞やをくゐるどうれゝ丞
とう丞ここのくこゐゐみびんのうこをとこゝこくみ丞こいでく行どど

かんえしそのくちたえてこざなりぬ此うたしかのきさ女がむしろしろを
ちらがりしあたる階にくぐれりにいさてうたぶところなしいと
あやしかりけるこの世にはよしなきまうしたるふみしまたるをしるのかた
し哥をもちの御寺にをさめて今なほありとなり其のち男
は家をのぞくのづちのみえんしらざおとももたえぬ女の家もたえ
たりとぞ仙臺の錦織細枝といふ人このことをよめる

妻と子をまちてこふなるそこの水ぐきにかきおく哥ぞあはれのさな

なる此ことさちのく人のうつしまくにまるしつけぬ

〇千曲川出水の後鬼火の事

信濃の国千曲川がちるうに冠着が嶽をえこそさしてなかれ
よなどころなり此川甲斐の国より出て越後へながるる大河なるが
まなりひとくせ霖雨ふりつづきてさまざまさり行ねどにやがて堤の
くづるるとひとしく以なり山のうまやぢに水あふれてそこなるひつる
家どものともおほかりし此里にあざるなを月日記月熊とよんよびさ
りなりけるをのこ二人川におちて死けりその夜より此川のほとりに
あやしき火のもえいでて二人の霊のあらはるるよといひのてもやまと
どこそあまたたまもとなりしもあひたりとぞいろにあまてれおのくえ
て夜になりてはとをひしきてのづるもののみくるわうひもたえもてぬさ
るほどにまうるるをひたぞらうをうたとえてそかしこにたちあらはれ
あやしきてでもあわかりなりかくること三月ばかりになんありけるとて

ゆ田中泉とのひろ人ことふう丞ひろげて川のゆとうゆひとろのい
ぶことをのとろ〻こそくおろくの僧をやとひ数〻とんの経文をどく
どさせ二人ぶぐどのこゆゆとて大法会をぞおこるひろるさてのち
泉四五人のひとぐをのぎろひつ丞て川のゆとうをさびあり犯唄
ひさろ犯のの一つ夜どぶ丞をあり犯ゆこ丞びさてくのくけい
さうつところえ人くのでおく犯てつゆのどゆどろうゆろるこれのとお
やゝ犯ことあうつろゆおうどさで人のあとろくもろゆかくうてこ丞ろら
おころゝ犯のの目ゆさぐぎう人のゆどろとゆゝ火をこう鬼火のゆもろ
よとおのひとうておのく犯てゆげこゝうつかころおころゝ犯めゆおひ
きとてまこゝげゆゆうく丞びさこをもくゆとおころくかこゆつひゆい

かうさろのこあこうてひきたぐらものでくめう泉いこをさこうゆ
こ丞びさこいあやくのゆのつひえゝてゆこどくゆもたかゝひこう犯と
ひとのくころゝゝあのくゆきろゝゝぬ

〇一目連出現の事

いせの国桑名より二里ばかりへだりて香取といふところあり
此香取より十余町西戌のうゝゆの犯て多度明神のこや居
あうこての別殿ゆ一目連とゆうとあういゆゝ人ろ近犯ころう
ゆこぎたひのあうつうと犯いさちまちあうゆ丞まゝゆゝてこたく
たせこるゆふこてるんのひつこふめう今こういたことせるうこう犯のこと
ゆるんこる月のるうぐよう霖雨きろうゆふうつぶて木曽川

伊尾川のるゞ丈さやく水さろくるろうして行くろゐちろ死ゐとうの
小川までやゞてつくき丈とづ丈て村々ゐ水もーらうぬさハ水いで
つろよとのゐどこそもゐ丈大いるる家るゞやゞてくるゐーるゞさる
人くハ木のとるゐよぢのゞりてさとけよゐるよとよゞゐこゐ耳
をつゝぬきさるゝーひきやるおひるう風さげしく雨つよくさとけ
舟さくこゞあくゞむるゝーく死さるを待のこゐてもそ丈ゐもゐこ
ゐそろゝかろ死かくること二日ゐるんおよびくるを何ものろのひいで
さくん今や一目連のゐろ丈まゝてさくハせさるゐるゐるゞいの丈
くとおきけゞそのこるゞく水の面ゐひゞ死こそろうるびさゝ死ゞ
かうゐゞもりくるこの夜るろゞべろよりさちまちゐ水引さろうく

人くかゝ死いのちをさくさとかうぬさろ丈一目連の出現を見ろう
しく人ゐるうろう

〇春人地震ゐ母を負て奇よ事

伊勢のくゐ香取の里ゐ村上春人とゐのめもう今よりハ八とせ
まろうさ死のこゐるんこるう死の十二日未のこ死ゞかりゞさちまちち
地ゐるひ家るうろゞ死ろうゞゞうおちゞ死ゞ丈ゞ尾ゞゞけておちち
ちゞびひのめとひゞくこゐくのいゞぢちのおろうるゐおろゝ
く今やめゐちろゞくうぬろこよとおゞろ死ひとゞくるゐ死さけゞひ
てたゝーうさまよひろう氏と死春人い老さる母をせおひて外の方
ゐいでくゐるゐこかゝーこゐ家ゞゞ丈てつちろゐうそろをおゐひ

目のうげてくくもくべたさたをつゑえことろさどめおとの〜
ひさきえてひさぶるあそろ〜かろるをらるじてたろの花
ひとろの竹だや〜のくさか〜ゑ毋をあろ〜せをうゐるでゝあろゐ
がらもゐうだうろのごくゐろ花やうくゑゑ心〜づめつぴ〜ようやさ
てといゑのとうでゝ哥よゝろろ山ゑきでをのゐくをさてて
音をれば人ともゐひつかくるてあろでや雉子の山ゑゐくゝえ
とよゝろうまづまゝてのちかくる中ゑてうゝよゝうるいゝとゝをうう
つけのゐざゐめをと人ゝのひゝをば春人ゝゝひてゑゝとよ花哥
のとくゑいゑめつちをもうごゝをべ〜と古今集のをゝ〜ば花ゑゑも
をべうさゝ〜ばゐぶも〜花ろゝゑいうごくゑめつちもえ〜づゑまろゑん

ともゝをもゝゑとゑめひてさをゝゝ〜をををもよゝをさべうと
さゝぶをゝををば人ゝゝをゝひてやゝゑゑろうさゝゝををまをゝゝさゑゑあゝ
をゝをゝれゐどろゝば毋ゑさををゝゐゐどろ花ゝるゑゝゝゑとさゝゐぶさるゐ
ゑゐをゝるゝ〜ゐうゝとある人のゝひ〜ゝさゑゑあゝろゑん〜〜ゑゝと花二ゐの
御寺二十八宇の家居をるゝふををゝぬうゝゐゑ小家ゐうゝどをゐゐら
ゐどゝさるゐゝゝ死ゝろ人疵つ花ゝろ人とをゝひとろゐゑあゝうゝぎろうき
ろの一目連のゑゑゐゝをゝさるゑゑゐるゝんと人ゝのゝふゝをゝゝとふ
ろゐんゐゝろゝるその国ようゝさゝろ人のゝろゐまゑゑゐゝるゝをゝふゑん

○生井おゝろゑて鯉数千をとゐ事

下毛の人ゑ杼木ゑひとろの小川ゐう山川ゐう小をち二十余里

がはど下に生井村といふところなんありけるにかまどがし川といふ
づ間川といへるがおちあひてはてしなき川になかれけるなりけり
いぬるとし霖雨(ながあめ)ふりつゞきて大に水いでけるが此
生井むらの川にて鯉(こひ)六千びきをとりえたり鯉のあたひ一ツ
を六文(ろくもん)ヅヽにひさぎけるにこの川の水あふれてこゝになかれいり
けるにぞありける江戸にもてきてこがねにかへたる人ありけるべし
めづらしきことや

○愚直(ぐちよく)なる老婆(らうば)が事

下毛杤木の数守(うじもり)が家に夜(よ)ごと人のつどひてくさぐさのものがたりし
けるおりなどこれらに老(おい)たる嫗(うば)のはなしけるあるとききてかけていはく

なかごろあやしきけんしやうあり二荒山(ふたあらやま)の天狗(てんぐ)なるおひやうかりてすむ
ところなくちりたりつくだとおぼえはやまとの文字をよめるなどにきこえける
ところにかへりたる此地(このち)の大平(おほひら)のうへなる輝石(てるいし)山にも三四人天
狗のきたりてやどりをさだめとあかるあるさへこのほどかゝる天狗
子をとりきたりてそれがそのまくらもとにたてまつりぬべしといひけるをききて
は天狗の子のなくこゑなりといふにとさんことさらにびんくとるかたもべしと
こたへけりとどうちきたりひとりの人のかたはらにゐてひつることなき
まねにおもてをおもひとりけるなかに老たるものはおろかにもぐるなる
ものぞかし

○飯室(いひむろ)何(なに)がしが家(いへ)のそうし女が事

えど神田の飯室何がしの家に鄙人ながら心まめやかなるありけり
女ありけるあるとき外より女の来る人のありてものがたりしける
によべ歯のかけつる夢見てけさそろやましくおぼゆとて此家の
妻の我歯のかけつる夢見つなんさもありとて櫛のはをおもひえて
まことなひなるが何事もおのれさへこれのみしんよりのなやみしごと
あるてあり名ごりともしくなるべきなればそのこころさぞとておよろ
ことひらく客人はかくいへり此ことはのあしくありてなに驚きてし
がとのくちある夜櫛の歯のかけける夢見んとするにおどろきておきあ
てつとめて女が来て歯をはおとしてまもりの心をおもへるふぞ
あるなるものとさとし

○須々木何がしの妻ふみの返事の事
えど青山の福村何がしあるとき世のうはさの人なきぞは須々木何が
しかりせうとてたふみん雨ふりてつれづれなるそれおはしまさめ
いなしさけさかなのまうけしてまゐるべくきこゆるひたよとぞいふ
ひつかはしけるとおかりありてつかひのもののかへり来がへしのふみや
あるとさんだてぞろとさなくおひらきてみなむが須々木何が
しが妻のふでしてみくづのむごかくやうにぞいひつけるぞかんせう
ことなりていとこころそうちくちびるひなしとも何あるもあらぬ
んうなきのうおもくおんまうけのよし　またこが宿のあるじさこ
さへめしなひまきさうちおやかくやどまてのまかくりそう。と

らちゐいたりつけゐかりうさぐ丞びまろのぶりうゐひぐりとぐ者る〜
〜る人をるゐおどろ丞さてれゐぐ〜いまゐかりうさりうちゐいたりつけ
ゐかりう〜〜といいるるまぶことりのぐ丞ゐそんとやぐてひさこちた
〜りの丞て丞ゐ丞びさあいゐりうぶ者ゐかりうとい詩をつりうか〜
りう〜ゐてたりつけゐかりまとい家の礫ゐ紙りてこ〜ぶりうといふ
のものをこをこたるゐりう丞ゐあさる〜丞ぶありうをりう〜くてかう
とりうりう丞ぶ人をるゐこけまりびてりうりうひりう

○且平朝霧をこの丞事

常陸のくゐ江戸さ丞の田中駒の助名を且平とぐいひける
つゐゐ朝霧をりのくせゐりゐるぐゐとりの花沢何ぐ〜用の

こゐりて且平のりとゐ行りう且平朝霧〜ていまぐ起出ざれ
ぐむる〜くかくりりうそのくち又用ありてたぐゐよりいゐてく
行りう已のと丞ぐかりうるゐいまぐゐ丞りでざりう丞れぐさてゐ
かくまでゐさいたりう人い又ゐりうぐて〜とゐりこ〜ひてかくりうり
さてのちさりうぐ丞ことりのぐきゐくさ丞ぐこぐこい昼のゐどゐ行
てりう家ゐつくゆるりりのりでくゐるぐい今のゐどひりう霧せりゐ
とりのひりうゐぐ花沢こゐゐどりう丞まどひさてゐゐりこい已の時
ぐかりゐゐ丞て午のと丞ゐい又ひりう霧せりう〜りとくぐいさゐいさぐ〜
ぐりつゐゐいゐさい〜〜こゐへどこゐ朝ぐゐをこのこりうゐゐゐりる
丞ゐどいゐさまぐ丞ゐゐ丞りでくゐさぐゐの花さりうぐめさりう今

のみどようさとこくいるさぐるるうとぐこくくる花沢伝ぐ〜
うちこくこひさてこくそあの〜ろ兄人るうくを兄こくてそぐまくふ帰へ
うくろまろ〜てのち田中旦平やんぐこる兄こくのあうて花ざい
がうくひやきくろ花ざいぐ家のものどもあるじいあさい〜てい
〜てあ兄ちぐ〜ぐこくのひくを兄びむる〜〜てかくう次のあさまこ
あ兄くを兄だこの日もいまぐあ兄いでぐこくふあぐせんちぐるるく
てかくうくるこの次の日いらくくあちく行くるふるかあさい〜ちぐる
こくふこい花沢ぐこちぐを兄ふかくいちをくるあぐあくるる旦ひう
ふこくろくうくんざくこくうで
あさぐれのあさるくれこくひくるうめこくひ〜兄こくるく花沢の

ぬ〜こくう兄て家のものどもあうこくこ〜あ兄てうくうくる旦平いこく
ふあさぐれをこのくくるふぐあるやんぐこる兄こくよう葬所こくく
る号をこくて及ういくうけ兄び所るぐよくくものこくう伝号を
のくものちふるこくふるんあうくる

○正平朝森をこのむ事

近江のくふ土山のく兄の橋本正平つひふあこいこるのくせあう
伝正平ぐ庭ふ梅の花のこ〜じめでこくさくぐあくるある朝
家のうちのものどもつあてくうやふあさいひのまくけ〜居くる
伝こく兄正平ふ兄いでく庭の梅の花くちくるぐあつくこんざくこくう
でく所よくこてくう兄るぐこくくさくこくふるんあくぐのこくめこあくこ

まひつることよとてさるあるじ〜ろうるやうでおさのまうけとてのひ
〜ゑびあるじをよびゐるどのあるじどさいとてそおさて〜ぞゐ
ゐんゐんびふ〜どおうまい〜てさう人くおどろかまくうのでうご
う〜ゐんびやうやくゆ〜てめさあろうさてもゐふるんとくおゐ出
〜ゐひ〜ろをと又いひ〜ゐひつるいゐるることゆうおさを〜んとゐよ
ゆ正平ゐれいまごおゐいでゐるおがえゆ〜ぞとゐをふひとぐ
ゐゐうちゐんあをせてまゐふおきらゐて〜をゐて〜めのをとゐひ
ゐるとゐひとうのゐぞ〜め庭ゆいゐて梅がえゆむをびゐる短冊
とうめてきて今〜ゐ歌をゐそよ〜〜ゐひつるゐをとゐひてゐご
〜ゐうをとゐんゐだ

あさまがゐゆゆ〜ごをゆめゆうふるゐゆ〜のうげさを庭のうゐを
がえとゐいうゐう正平おどろゐていゆ今のゆどこのゐ〜ゐうゐをく
梅がえゆむをびつる夢ゐをるゐうゐとゐひゐう女どめゆやゆ〜をさゆ
〜ゐゆ〜ひのめゆけいでゐくをちをゐそゐゆ〜つるゐゐ〜めとそでゐぶる
ひ〜ておそれゆひゐうのちよくきけだ正平〜をそぶゐゆかゐるを
〜て女どもをおどろゐ〜つるゆるんゆゐゐるとそ

〇素喜女をおひて川をゐをせ〜事

長門のくゆ關城のゆをうゆ阿武の素喜とゐふのめのゆゆゆゐて
かくるとゐをある小川のゆとうゆ二人の女のゆをくるやゆるさるゆをて〜ゐ
ざを居〜ゐる。ゆや〜をて何事ふうとゐゆ小川をうきゆさうゐく

こゝろがけうことゝまろ木の橋をそおそろ〳〵くとうぐさゝ丞べう丞と
ひたぐるるりとぐそくさる素喜うち咲てさだかりのとるゝ丞と
ひるゐひとゝもひてこそとさ〳〵まゐらせゐ彦ゐ紅をそくさゐひゐ
とゐひてひとうくゐひてとさ〳〵をりゝ丞べ女いゝぐぐよろう
こびゝる素喜やゞて

さをや女ゞゐやぶむ谷のるゞ丞をゐさやせゐゐひてとさうう
つるゝるとんちゞさゝゝ丞べひとうの女かく〳〵

谷川のふゝ丞るゞ丞ゐとさうゝゐさくゐゐゝゐ君ゞるさけ
ゐよとゝゝろう素喜いとゐゐろ〳〵くゐゐひとうてゝろゐうてゝそ
せゐゐゐひゐゐゐ〳〵せられゝゝゐかくてゐるひゐゐゞゐのゐろ〳〵れゞ
女いゝぐゐゐとゝちるゝて行ゐゐいひようつゐけゞゐくうゝぎゐ
〳〵らひぬさて人のゐ丞ゝひさいるゝとゝろゐいゞるゝと丞女ゐゞる
〳〵くけ〳〵丞ゞゝてゝれくふゝうかゝゝうかゝるゝうさ〳〵ゐひうゝとも
ゐ〳〵でゝゞろるゝとゝるいひゝるひゝとゝてゝるいゝうゝるゝくいひゝる
ちてゐゝうゐゞゐゐゝ行ゝる素喜いかゞやゝ〳〵くゐゐひゝゞびゝく
ゐ〳〵ゞくゐかく丞ゝうぬ陰徳をゐゞゝゝてかくて耻ゝゝう丞

○田女を見うゝ〳〵る(ひ)事

近江のくゐゐゐ丞ゝる藤尾田神ゐうでせんとて友ゞちの
ゐのゝ行舟ゐゝとゐうてゞのう行ゝるゐ丞くて見丞ゞ川岸の柳
ゐのとふゝゝのゝゝちのとゐゞゝくゐゞゝゝゞゝる〳〵丞女乃

〜さどをろ風のたゝるに夜のもとをちらくとあがりて豆あら
はゝのでうるをおさえてかくさまくをるそのをぐらいとをやど
〜ろう四ふみよりうとをとをえて

そとのとふく風もおりげゝうとめるハ女るうろう岸の青柳
とゝのゝろく女うちきくていとゝもろ〜げゝえおくるさるらろうこだ
ろう四のとよりうをだ人るうろるだが出女ゝいひよ〜まくもりひて
そくゝ用のことをだ岸ゝつけてよとのふかゝ〜ゝそろえて舟を岸
ゝよをと四きゝゝのがだが友ごちいふみこぶを行ぬやゞて柳のゝと
ゝ行てゝをゝだが女ハをうをどのづくゝゝとゝごゝをめゞうるやゞゝ
雨ふろ出て神さえのとゝおどろくゝゝうるうひゞだいるひろうひゝう

めだゝとゝをだが四ハゝをゝだおのゝだゝけゝまろびつゝゝゝげゝかゝうろう。さ
てゝのゝまろゝでゝも次の日ゝとろうゝゝゝだ

○九雄集合舟ゝて女をゝだ〜事

浪花島の内の前田九雄京ゝ行くかくうるゝとだ夜舟ハのゝ
ゝしひろふみゝそよゝゝあだゝとのゝ合ぶみゝてゝどうろうろうろゝゝいと
ゝろうゝどげるろう娘と母とゞさと三ゝろうづだとるゝゞのゝ居ゝうゝこの娘
ゝゝかゝうゝちいゝゞくゝうゝゝ〜ゝかうゝだが九雄ハゝみゝてゝをだ人るゝうゝこの
ゝゝをゝゝゝのゝいゝをゝゝくゝゝおゝりひつだゝどゝゝどゝゝゝ〜ゝりゝ〜だだかひろゞ〜
ゝとかくゝ〜てふみるゝゝをゝゝゝふつだゝをだゝだ日ハゝだゝゝのゝゝゝゝひゝろ〜〜〜へく
岸ゝゝゝあゞゝてゝゝのゞゝゝるゞゞゝゝだゝゝゝゝゝゝゝ九雄ハゝゝちのゝゝどゝゝ

さるは先の舟長がりのりたうなしと云に舟にのころをりかの娘
のをうづるもいまだあがらねど舟にありてその行さきをうらこゝろに
とふらひしハさぞうれしさもいざるがそのこゝろをさぐるにあんあらば
る九雄こそおのゝかべきをうる事とおのひづとさしようて
その行るゝるにところをかこらにとひてたえるこそきまあつもうけく
やどりまでいきしまへあるひしてこそまぬらせめとの人だちそろひ
ことによろこびなりやがてふねハこぎいでとう宵やちる迄かくとこに
うわもきかこもこえこよろこびとずさるどて　かのがうしるがうをう
あくだのゝいたるしとおもひつゝどむさとあいそゞろにくやおもひえん
ふつにのゝいそぎさて舟長がりつきぬるはあがりて荷物るどおの

がおとさにたちよせて宿にて娘をまちつけゝるさて六十路ばかり
の老たる女とおきなとゞ二人のときゝにたるはむすめ出たはいろにと
とふにおのはく娘ハつるをたべらむどとぞよくかうがへたるは
がるの娘つるをるハもやうさきのきしにあがりておとにのこり居へ
そのくらかうに居たる鄙人にぞありけるきりとおもえしらでねも
ごろにかのしつるとのきゝしく又をらさくしれどはじめある
いとせめとのひつるとのおごにもしがさくやんでなみくてこがおど
さに二人が荷をとおもせて行きぬまでこそおくりにきぬ
　おのひきやむすめにうく火をつゝむをみて是のやどちにまよふ
べしとてとひとりごちしてかへりぬ

○堀川ゆさとむ女髪結をさとうす事

花洛堀川のやとうゆむろ〜やんごとなきこふこやづくち〜女の今ハ人のおもひものとろうてかくれさとむがあうろうおほじとうゆ人のかをあげしてるうさひとさるいやゝ死男ありそうゆ男うゆうくちいをじくうるゆ〜く雛人形のごとうとて今ろう平ろごもざろ〜て人のひそくのしろるされバとゆるゝで外ゆ男ハあゝじろるどおのづゝおものひあづてこちの女だゝをこゆづのくごくまてゆ入てぞゝこの〜ゝろるあると死ゆ髪あげ男ゝの堀川ろる女をおのひそあてこちのゆどゆてあひても何ゝゆとゆのゆゝ〜ゝゆゆゝ。みことゆとゝひてさぐ人をやとひて心のゆどをいさせゝゆゆゆくゝゝさ

ゝさゝろうさゝゝがふゝゝう死てあてゝほしとおのひゆくゆゆゆど此男かりのえかくざろゝゆゆゆ人ゆかくせてゝゝおろうゆろれ次の日つゝあて仲立の人かゝ〜のふゝのてきゆゝゆゆゆゆれゝゝてやゞゝゆひゝ死ゝゆれどゝれいえよまゞ人ゝてよませるゆきようろる紙ゆふでのさゝゝびのゆもあやゆう死ろゝ〜ゝとのゆも又ゆくかろゝゆ。人ゝろゝゆもあらゆ身をかう生でおのひゝろゆるゝとのちの世までもゝゝされゝゝゞらゞゞさいゆろゝゞゝいゝゝゞろゝの心のゆくゆもろゝゞゝ死ゝゝとのゝゝゆかくゝゞゞゝ〜だゝゝゝ〜く心をのゞゆゝろゆひてゝゝゞゝの思ふゆまうゝゝろやうゆろうゝちゝ死をゝゝて待ゝろゆゆやろゞいゝゝゆゝゞゝゝ死ゝまでゝゝろゆめゝ〜ゝゞゝいゝけゝろ此をゝゝろゝゆ〜く人く

のこるまへたるこらやうふおごめろ〜つく吹きとうまろ〜てふこの
おくふうこまろ

身へおのふまくふるうとも髪あげをうこの毛わどもおのふ
のめろいとぞまろ〜〜ろうこ丞ゆてことさいまりゆこ丞ぶこの男
いとくくちをしがりあ〜ざろ〜てる兄々丞ど女いい兄ゆひあを
人のおのひのろ丞ぶろひろくてこぶをぢかぶやろ〜てぞやこ
ゆろうとろう

猿著聞集二終